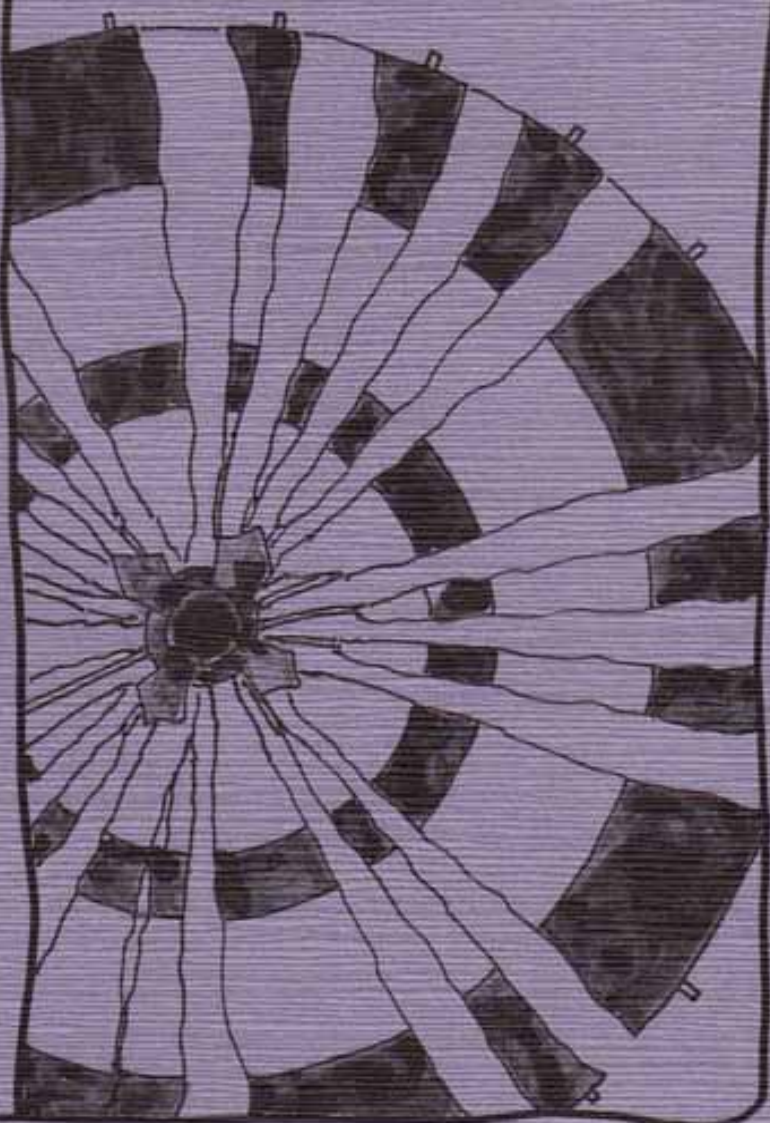


やぶれ傘



一三三三号

二〇二三年八月

胸元に降りる遮断機油照り 根橋宏次
 耳のツボ目のツボ押しして明日は夏至 青谷小枝
 ひまはりの丈のバラバラ小学校 きくちきみえ
 落ちてゐる病葉丸いのは桂 大島英昭
 間を空けて鳴いて郭公遠ざかり 丑久保 勲
 鉄棒の残る廃校栗の花 廣瀬雅男
 夏蝶が電光掲示板よぎる 小山よる
 降車後の長きホームを行く薄暑 渡邊孝彦
 本棚の本に挟まりゐる団扇 藤井美晴
 何となく青梅買ってしまひけり 瀬島酒望
 短夜の明ける前から土手歩き 白石正躬
 目高掬ふ水甕にわが目玉浮く 有賀昌子
 舟虫のちりちり逃ぐる舟屋跡 天野美登里
 窯変の壺に活けられ柿若葉 秋山信行
 浅草は鬼灯市かどつと乗る 安藤久美子

抄 集 句 傘 大 崎 紀 夫 選

校庭の白線あらた雲の峰 竹内文夫
 時々鱗の光る鯉の群 中島和子
 グローブにびしつとポール梅雨晴間 貫井照子
 落蟬をそつと林に戻しけり 広瀬 濟
 夏草の果てに犬吠埼灯台 道林はる子
 竿出せば一投目から鯰くる 村田 武
 玉葱の不揃ひ四個ネット売り 山本久枝
 山あひの植田に水の満ちる夜 湯本正友
 水中花きのふの泡のそのままに 吉田幸恵
 天井にゆつくり動く扇風機 浅嶋 肇
 旧道の一本裏で目高売る 岩藤礼子
 七月の風が来てゐる展望台 木村瑞枝
 合歓の花上を過ぎゆくモノレール 倉澤節子
 向日葵は向こう向きなり畠道 黒澤次郎
 暑き日のポテトフライの塩加減 小泉里香

高橋均

外で見えて二階から見て夏の月
古書街に楽器屋並ぶ梅雨晴間
わがままが二匹ほどもある蟻の列
汗ぬぐふ何はともあれ大ジョッキ
がらんもどきかくも濃く煮て夏の宿
梅雨晴間訃報の並ぶ揭示板
水やうかんおもちやのやうなさじで喰ふ

高橋宜治

夕立のけぶる先なる絵画館
白南風に干したるシャツはかがやきて
紅薔薇雨を弾きてかをりたつ
木の香ある建築現場梅雨明けける
湯にゆれる青嶺の中の湯に浸かり
砂浜を駆け下りけり炎天下
朱夏の空雲はつぎつぎ湧きたつて

竹内文夫

走り梅雨塗り替へられた歩道橋
早苗田の向う新興住宅地
磨硝子に蠅虎の影ぽつり
校庭の白線あらた雲の峰
渋滞の国道わたり夏座敷
痛風の足じつと見る夏座敷
梅雨晴間出窓に白と黒の猫

中島和子

灯の下の影絵のやうな盆踊り
靴紐のずるずるほどけぬる薄暑
梅漬けて時折揺する瓶の底
鰐口を一人で鳴らす梅雨さ中
夏の葬復々線に乗りかへて
かまきりの顔三角にしたしめり
時々は鱗の光る鯛の群

けふも雨ざくろの花はこぼれつき
貫井照子
谷間を風吹き渡る青胡桃
一枚の戸板にならべ夏野菜
玄関にでんとをるなり蚊遣豚
朝明けにかすかに「ポン」と古代蓮
日焼の子すつくと立つて譲る席
グロীবにびしつとポール梅雨晴間

野口希代志

暗渠よりぽつと光りて蚩飛ぶ
蛇の衣岩の隙間に残りをり
海に入る河童祭の笛太鼓
髭づらがケケバブ売る店南風
カラカラとサクマドロップ梅雨晴間
穂高岳山荘よりの流れ星
山頂へ九十九折なり夏の富士

浮苗のただよつてゐる植田か
萩原溪人
水口をちよろちよる過る目高かな
巻貝と小魚を手を素足の子
石段に蜥蜴の尻尾だけがあり
自販機に十円足らぬ梅雨晴間
コーチンが山里に鳴く梅雨晴間
ひとつひとつひかるトマトを採つてゆく

萩原久代

隣りから機械の音が梅雨晴間
干し草の脇に置かるる蚊遣香
庭仕事うっかり蟻を踏むことも
八ツ橋をトントン歩き蓮の花
雲海の拡がる速さ目の下に
サングラスの旅の重さを玄関に
夏休み北の大地をドライブす

広瀬 濟

小でまりの花ふんはりと籠に活け
春夕べサラランラップの端探す
春眠の子供に猫の添寝かな
角の家に咲くライラック塀越しに
ベンツ車はシルバーマーク風光る
炎天下重機爪置く食事時
落蟬をそつと林に戻しけり

増田裕司

五月雨の向うに那須の山ならび
雨止みて蚯蚓をつつく尾長鳥
どくだみの白き花咲く庭は荒れ
紫陽花を切り摘む尼僧作務衣にて
雷雨の夜炭火を囲む焼肉屋
色褪せし紫陽花三つつみにけり
炎天下反則切符きられけり

道林はる子

濡れ縁に足ブラブラと柿若葉
白墨の線路消しゆく青葉雨
草笛を吹き競べをり老夫婦
早草を蹴とぼしてゆく鬼ごっこ
波あびる砂のきらめき夏の浜
夏草の果てに犬吠埼灯台
芭蕉布の村人集ふ島祭り

箕田健生

満開の紫陽花に雨降り注ぐ
さくららんぼ双子の孫に送りけり
白鷺の川辺に立ちし細き脚
雨あがり庭に飛び交ふ黒揚羽
杖つきて唄ふ女性や月涼し
メロンを送り卒寿の友の無事祈る
七夕やコーラスの声きこえくる

白靴やどこに行くにも野球帽
じやんけんの大きなこゑや夏来る
回廊をみしみし渡る梅雨曇り
才女にも硬派と軟派かき氷
父の日はほとけの夫と過しけり
蜻蛉の己の影へ着地せり
てんとう虫二ツに割れてふはふはと

武藤節子

竿出せば一投目から鯨くる
鳴きながら飛び去つてゆく閑古鳥
夏蝶やゴミゼロの日のごみ拾ひ
出勤の道は渋滞朝曇り
朝焼けや共に働く掃除ロボ
夏風邪の薬山ほど貰ひけり
黒い種が数へるほどの西瓜食ふ

村田武

シャトルバスが駅へ行く道山法師
駅前の雨の葉そよぐ夕薄暑
夏の雨いちやう並木と絵画館
仰ぎみる泰山木の花白し
半夏生無人販売所の野菜
見沼縁藪萱草の花一面
畑中の小さき社の茅の輪かな

森美佐子

公園に隣る田んぼの田植ゑかな
中古車の並ぶディーラー立葵
体験の子等の田植ゑのジグザグに
対岸の土手に日の没る半夏生草
大仏のうしろ明るき梅雨晴間
玉葱の不揃ひ四個ネツト売り
茹で上げし新じゃがするり皮のむけ

山本久枝

法 要 の あ と に 風 来 る 竹 の 秋
山 あ ひ の 植 田 に 水 の 満 ち る 夜
蝸 牛 を 跨 い で 通 る 雨 上 が り
管 理 人 積 も り し 夏 の 落 葉 掃 く
干 草 の 囲 ひ の 中 に 山 羊 の 居 て
多 摩 川 の 土 手 に 涼 風 独 歩 の 忌
四 阿 で 腰 を お ろ し て 夏 の 山

湯本正友

雨 の 音 き き つ つ 京 に 鱧 尽 く し
水 中 花 き の ふ の 泡 の そ の ま ま に
繡 線 菊 の 木 と も 草 と も 花 け ぶ る
植 田 澄 む 畦 の 切 り よ り 水 こ ぼ れ
武 蔵 野 の 葉 ず れ さ わ さ わ 独 歩 の 忌
追 熟 の 実 梅 の に ほ ふ ざ る の 上
木 漏 れ 日 の 中 の 茶 店 の か き 氷

吉田幸恵

留 守 宅 の 庭 に 鈴 な り ミ ニ ト マ ト
傘 立 て に 日 傘 雨 傘 雨 あ が る
ビ オ ト ー プ 布 袋 葵 に か じ り 跡
寝 そ べ つ て あ る 日 焼 子 に 濡 れ タ オ ル
ケ ー キ 屋 の 開 店 を 待 つ 白 日 傘
南 京 錠 の 柵 へ 伸 び 来 る 藪 枯 ら し
「 休 診 」 の は り 紙 を 見 る 夏 の 昼

脇村 碧

猫 の 眼 の 時 々 開 く 五 月 闇
吹 き 降 り の 雨 に 濁 れ る 植 田 か な
夏 木 立 風 吹 き 抜 け る 独 歩 の 忌
昼 寝 覚 め 暫 く 庭 を 眺 め ぬ る
天 井 に ゆ つ く り 動 く 扇 風 機
電 線 に 雀 卵 の 花 く た し か な
五 月 雨 る る 上 野 の 森 の 美 術 館

浅嶋 肇

店內は昭和の匂ひ
柏餅
葉桜の木陰で休む
夏の昼
友からの絵手紙届く
丘の上
青葉風鐘楼見ゆる
旅の宿
風薫る越後深山の
旅の宿
縁台で蚊遣の燃る
夕餉前
干草の積み上げて
ある牛舎裏

石塚清文

梅雨晴れ間犬連れ
だちて夕の街
夏蝶の乱舞農婦は
田の外に
梅雨晴間行き来す
る人小走りに
麦刈りは土に触れ
ずにバインダ
森の木がふーと息
して梅雨明け
つばめ来る規則あ
るごとつもの巢
垣を越えくちなし
の香の流れ来て

石原健二

喜寿といふ誕生日
きて額の花
水郷の植田の道を
銚子まで
衣替へ沖繩そばを
食ひに行く
山独活のえぐみ
をのこす酢味噌
和
牧草の刈られ丸
めてころがされ
炎天下コーラの
赤い販売機
牛舎から牛のほ
ひのする薄暑

泉 一九

お握りと絵具を
持つて薔薇園へ
カーテンを開け
れば朝の柿若葉
本堂で落語会
する梅雨晴れ
間
頬張れば口い
つぱいに枇杷
の汁
夏の鳩小枝を
積んだ巢の上
に
塩振った胡瓜
齧つて一休
み
下駄ばきで鳥
居をくぐる
夏の宵

伊藤 薫

◇9月・10月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
9月	1日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	1日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン3	秋山信行
	5日(火)	AM9:00	こなから会	あいパル	WEP編集室
	5日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	大島英昭
	6日(水)	PM6:00	ぎんなん会	武蔵浦和コミセン1	丑久保 勲
	16日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	23日(土)	AM10:00	楽天会	あいパル	廣瀬雅男
	23日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
10月	2日(月)	PM6:00	ぎんなん会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	3日(火)	AM9:00	こなから会	あいパル	WEP編集室
	3日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	大島英昭
	6日(金)	PM6:00	なごみ会	武蔵浦和コミセン7	秋山信行
	15日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	浦和コミセン9	丑久保 勲
	21日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	28日(日)	AM10:00	楽天会	あいパル	廣瀬雅男
	28日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

〔注〕NHK大崎教室は9月で終了します。

ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

10月15日(日)の吟行。

集合 10時、JR北浦和駅改札口。

吟行地 見沼・市立病院の裏側。

句会場 浦和コミセン・第9集会室。

捨登穂あま地幕
 てる園買つと図間
 のにひさめアに
 の駄物はりとプ
 の多駄籠に長の
 き駄こにい子本
 リフねいつ家重
 フオてつぱ売さ
 ォームるば梅夏
 かたる梅雨の夏
 たつ朝曇の休
 つむり間秋み
 りり間秋み旅

江口恵子

旧木真雲咲喪抜
 道に夜ののきの家
 の登雷の峰切の
 の一猫に矢印つ
 本裏の向うにジ
 でうにオの迂回
 目高雀の裕し
 売の次郎て花
 る子郎て花

岩藤礼子

◎連絡先 秋山信行 ☎048-874-0555 藤井美晴 ☎0422-55-2733
 大島英昭 ☎048-592-5041 WEP編集室 ☎03-5368-1870
 廣瀬雅男 ☎048-443-7522 丑久保 勲 ☎048-853-3856